

# 第10期鳥羽少年探偵団

## 河村瑞賢の灯した 火をたどれ



きょうみ しんしん とば いろ  
興味津々鳥羽の色。

人材育成講座「地球塾」の特別講座として活動する「鳥羽少年探偵団」。調査や体験学習を通して鳥羽に  
関係がある偉大な人物、歴史、文化を学びます。  
第10期目にあたる今年度は、市内3中学校から9人の団員が集まりました。  
今期は江戸時代、上方と江戸をつなぐ航路を開拓した河村瑞賢と「人と人を結ぶ海」をキーワードとして調査します。

教育委員会生涯学習課  
☎ 1268



第2回学習会で訪れた菅島にて記念撮影

### 「人と人を結ぶ海」鳥羽

鳥羽の海は江戸と上方（大阪）を結ぶ道としての海であり、さまざまな物産を運ぶ大動脈でした。この海を通じてさまざまな人や物が鳥羽に来て、また運ばれていきました。

海を往来する人々は、鳥羽で悪い、風や天気待ち、海の安全を祈りました。

鳥羽に住む人々も彼らをもてなし、安全航海のために尽力してきました。

今期は、それらの人々に思いをはせながら、鳥羽にとつての海を考えます。

### 河村瑞賢とは

河村瑞賢は江戸時代初期の豪商で、伊勢国度会郡東宮村（現在の三重県南伊勢町）に生まれ、13歳の時、江戸に出て幕府の土木工事の人夫頭などをした後、材木屋や土木請負を営むようになりました。

明暦3年（1657年）、明暦の大火の際、土木・建築を請け負う事で莫大な利益を得ました。

寛文11年（1671年）、幕府の命を受け、東廻り航路（東北地方から江戸）と西廻り航路（出羽国酒田から日本海沿岸をまわり、瀬戸内↓上方↓



河村瑞賢(1618年～1699年)。山形県酒田市に建立された記念像より

紀州沖↓遠州灘↓江戸）を開いた人物として知られ、輸送に要する時間と費用を大幅に短縮することに成功しました。

また、菅島にかがり火を焚いて目印とする「御篝堂」を建て航海の安全に力を尽くした人物です。

晩年は、その功により旗本に加えられ、元禄12年（1699年）に83歳で亡くなりました。

### 結団式

第10期鳥羽少年探偵団の結団式が5月29日にミキモト真珠島真珠博物館ミュージアムホールで行われました。

地球塾塾長である木田市長から9名の団員たちと明智小五郎役の大木信幸さんに任命書が授与されました。

来賓のかたから激励の言葉をいただき、団員たちは、今

期の活動に向けて決意を新たにしました。

結団式の後、地球塾と合同講演会が行われ、地球塾塾頭で南山大学教授の目崎茂和さんとミキモト真珠島真珠博物館館長の松月清郎館長さんから「御木本幸吉と真珠」をテーマに御木本幸吉の功績についてお話をいただきました。

### 第1回学習会

第1回学習会は、7月3日に市文化財専門員の豊田祥三さんを講師に迎え「港町鳥羽に思いを馳せる」をテーマに中央公民館で開催しました。

江戸から明治中期までの帆船時代の鳥羽は、風や天気を待つ港として栄え、江戸へ向かう、樽廻船の立ち寄り港として重要な役割を果たしていました。

当時の船は帆を張り、風の力を利用して進む帆船であったために、船頭たちは日和山で風と天気の良い悪いを見定めていました。

団員たちは実際に日和山に登り、文政5年（1822年）に灘の商人が寄贈した方位石にも触れて、当時の航海の大変さを学ぶことができました。その後、今も港町の面影が残る本町周辺を散策し、料亭





明智小五郎役  
大木 信 幸  
(教育委員会生涯学習課)



庄司瑠美加さん  
(鳥羽東中2年)



竹地佑真さん  
(鳥羽東中2年)



中村 萌さん  
(鳥羽東中2年)



上村真子さん  
(加茂中2年)



川中美咲さん  
(加茂中2年)



中村笑香さん  
(答志中2年)



中村友香さん  
(答志中2年)



橋本まこさん  
(答志中2年)



濱口紗えらさん  
(答志中2年)



しまっ子ガイド3名に菅島を案内してもらいました(第2回学習会より)



日和山にある方位石について説明を受ける団員たち(第1回学習会より)



結団式で任命書を受け取る団員



和船を漕ぐ体験をしました(第3回学習会より)



海の博物館を訪れ、平賀学芸員から当時の航海についてお話をしていただきました(第3回学習会より)



菅島灯台の見学をしました(第2回学習会より)

跡や旅館跡を見ながら、にぎわっていた当時の様子の説明を受けて、第1回学習会を終了しました。

## 第2回学習会

第2回学習会は、7月24日に「河村瑞賢の灯した火の正体」をテーマに、市文化財専門員の野村史隆さんを講師に迎え、菅島に渡りました。

また、菅島小学校児童のガイドボランティア「しまっ子ガイド」のみなさんに島内を案内していただきました。

菅島周辺は数多くの岩礁があり古くより海難事故が発生していたため、安全航海の目標として江戸時代に河村瑞賢により御簀堂が建立されました。そこでは、かがり火の光を反射させるために壁が白く塗られていたことを教えてくださいました。

菅島ではその後、200年に渡って、かがり火が焚かれていましたが、明治6年(1

873年)イギリス人の技師ブランドンの設計による煉瓦造り西洋式灯台が建設されました。

団員たちは、鳥羽海上保安部の職員のかたの案内で特別に菅島灯台の内部を見学し、第2回学習会を終了しました。

## 第3回学習会

第3回学習会は、8月7日に「江戸時代の船について知る」をテーマに海の博物館を見学しました。

まず地元のかたに漕ぎ方を教えていただきながら和船を漕ぐ体験をしました。実際に船を漕いでみると、地元のかたに手を添えていたただかないと思うように進むことができました。

また、講師の海の博物館学芸員の平賀大蔵さんから御簀堂の模型の展示を説明していただき、江戸時代の航海の大変さや、大阪と江戸間の航路での鳥羽の重要性について、

お話をしていただきました。その後、博物館を見学し、たくさん船の展示の中から一番印象に残った船の写真を撮り、その船について疑問に思ったことを発表しました。

発表後、平賀さんからそれぞれの船について説明を受け、ちよつとしたことに疑問を持つと歴史はとても面白くなることを教えていただき、第3回学習会を終了しました。

## 今後の学習会の予定

- 第4回学習会 (県外調査・東京)  
10月23日(土)〜24日(日)  
テーマ 江戸時代の船と航海を知る
- 第5回学習会 11月13日(土)  
テーマ 海を航海する人々の祈り
- 青峰山の見学
- 第6回学習会 1月29日(土)
- ・ 今期の活動報告